

令和5年度 全国学力・学習状況調査

帯広市立大正小学校における結果について

令和5年4月に実施した本調査の結果についてお知らせします。

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象学年

小学校第6学年 男子 18名 女子6名 計 24名

3 調査実施日

令和5年4月 18日(火)

4 調査結果の概要

(1)教科に関する調査

- ①国語 全国・全道の平均正答率を大きく下回る
- ②算数 全国・全道の平均正答率を大きく下回る

(2)問題別の結果について

①国語

- ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が高かった。
- ・ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表すことに課題が見られた。
- ・ 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめ書き表すことに課題が見られた。

②算数

- ・ 乗法の計算で解答する問題の正答率が高かった。
- ・ 高さが等しい三角形について、面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られた。
- ・ 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、違いを言葉と数を用いて記述することに課題が見られた。

(3)児童質問紙の結果について

- ・ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じている児童の割合が、全国・全道の平均を大きく上回った。
- ・ 国語や算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと考えている児童の割合が、全国・全道の平均を大きく上回ったものの、好きだと考えている児童の割合は、全国・全道の平均を大きく下回った。

- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が、全国・全道の平均を大きく下回った。

5 調査の結果

【国語】

平均正答率は全国・全道を大きく下回りました。学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができています。

一方で資料や対話文を読み、分かったことを決められた字数で書くことに、課題が見られました。読み取ったことをもとに、自分の考えを記述することに苦手意識をもつ児童が多いことがわかりました。今後は、同じ文章から、複数の捉え方があることをペアやグループ、全体交流などで理解し、条件に合わせて記述する活動を意図的に設定していきます。

【算数】

平均正答率は全国・全道平均を大きく下回りました。正しく計算することや、図形の性質を答えるなどの基礎的・基本的な学習内容は、定着しています。

一方、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取り、記述する問題について課題が見られました。知識・技能の定着だけでなく、活用場面に意識をおきながら、学習活動を工夫して記述したり説明したりする力を身に付けることができるよう、授業改善に取り組んでいきます。

【児童質問用紙から】

各教科に対する意欲が高く、どの勉強も大切であると回答している児童の割合が多い一方、「国語、算数の勉強は好きですか」や「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」といった質問に対して、当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答する児童の割合が全道・全国平均を下回る結果となりました。

何のために勉強し、なぜ勉強しなければならないのかという学ぶ目的を明確にし、授業の中で繰り返し共有していく必要があります。また、「わかる楽しさ・できる楽しさ」を実感させるためにも、学校・家庭ともに、子どもの努力や成長を積極的に認めていく働きかけを大切にしていきたいと考えております。

6 今後の取組

読み取った内容をまとめたり、自分の考えを表現したりすることは、本校共通の課題と言えます。本校では、学力向上プロジェクトチームが中心となり、まずは、読解力の確実な向上を目指し、全校一斉の読書の時間を設け、読書週間の改善を図り、日々の授業を関連付けながら文章を読み取る力を向上させて参ります。

今後実施予定の学校評価アンケートと、第3・5学年の標準学力調査の結果等につきましても情報を共有し、さらに検証改善を図って参ります。